

ヤングリーダープログラム参加報告

日本共済協会 調査研究部 ^{くが しんや}久我 真也

本稿は、ICMIF主催で5月26日にオンラインにより開催されたヤングリーダープログラムの参加報告です。

同プログラムは、ICMIFのロンドン総会（2017年）の際に第1回目が開催され、今回は、2019年（オークランド総会時）に続き、3回目の開催となります。

1. はじめに

ヤングリーダープログラムは、ICMIFの各会員団体において将来的に組織を担う一員として嘱望される若手職員（18～35歳）を主な対象としており、プログラムの参加を通じて、他の協同組合／相互扶助の保険組織の同年代の職員とのネットワークを広げ、保険業界に影響を与えるさまざまな課題、会員団体の事業理念や事業戦略などを学ぶ機会を提供することを目的としています。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響

で、過去2回と異なり、オンラインによる会員団体CEOとの意見交換に限定して実施されました。

限られた形での開催でしたが、世界各国の会員団体から16人のCEOが参加し、50を超える会員団体から参加した若手職員約150人（日本会員からは5団体、14人）が16のグループに分かれ、意見交換しました。

私が参加したグループのCEOは、ニュージーランドの相互保険会社Farmers' Mutual Group（以下、FMG）のクリス・ブラック氏で、日本会員からは、JA共済連（2名）、こくみん共済 coop<全労済>（2名）、JF共水連（1名）、コープ共済連（1名）、当協会（1名）、そして、海外からは、フィリピン（3名）、香港（1名）の合計11人が参加しました。

2. CEOとの意見交換

プログラムでは、FMGのCEOブラック氏に11人の若手職員が順番に質問をし、それぞれに対して、ブラック氏がコメントする形で進められました。意見交換では、同時通訳が付きましましたので、英会話が苦手なわたしは、もっぱら通訳頼りでした。

参加者からは、SDGsの取り組み、他社との差別化、コロナウイルス対応、優れ



たリーダーになるためには、などさまざまな質問が投げかけられました。

ブラック氏のコメントのなかで、一番心に響いたのは、「最終的には良い人は勝つ。良い人柄、そして良い価値観を持ち合わせている人が勝者になるということです。また、物事を複雑にややこしくせず、シンプルに進めることが大切です」という言葉でした。良い価値観をもってシンプルに。まさしく、協同組合の相互扶助の精神や共済事業の制度そのものではないかと感じました。

3. プログラム参加の感想

前述したとおり、プログラムには同時通訳が付き、語学面でのハードルをあまり感じることなく参加できました。しかし、英語で自分の考えをうまく伝えられたら、CEOから説明を受けるだけでなく、それに対して議論を深めること（本当の意味での「意見交換」）を通じて、より充実した内容にできたのではないかと思います。

また、少し残念だったのは、参加者間の交流が図れなかったことです。過去2回の実開催

時のような参加職員間のネットワークづくりは実現できませんでした。

オンライン開催では限界があるかもしれませんが、CEOとの意見交換とは別の場で、参加者間でそれぞれの国の文化の違いや考えを共有しあえる機会があればもっと良かったと思います。

これまで団体の経営トップや国外の会員団体の職員から直接、話を聞く機会がなかった私にとっては、今回のプログラム参加はとても貴重な体験となりました。フィリピンや香港からの参加者の質問内容から、国により環境や文化等の違いはあっても、協同組合や相互組織における相互扶助の精神について私たちと同じように大切に思っていることや、協同組合らしい保険（共済）はどう実現していけば良いのかなどの悩みを抱えながら事業に取り組んでいることを推察できました。

ヤングリーダープログラムは、世界中の経営トップと直接話し合える貴重な機会ですので、若い世代の方にはぜひ積極的に参加してほしいと思います。

若手職員からの質問	クリス・ブラック氏からのコメント
SDGsの取り組みについて	SDGsは多くの項目をパフォーマンス重視で行うのではなく、事業のなかでできる分野を（17項目の中で最も近いもの）選んで始めていくことが大切である。
リーダーについて	リーダーにも色々なタイプがあるので誰でもリーダーになり得る。よりよい聞き手であるということが大事である。私の求めるリーダーシップスタイルは、前向き・積極的・一生懸命働く、の三つである。
他社との差別化の取り組み、最高顧客満足度の受賞について	顧客との直接的な関係を大切にしている。顧客からの電話は10秒以内に出ることや、車ですぐに顧客のもとへ駆けつけられるチームを結成するなど、スピーディな対応を心掛けている。また、無料のアドバイスサービスの実施のほか、イベントも積極的に行い、若い農業従事者等が集まる機会を提供することなどが評価されたと思う。